

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100299
法人名	株式会社メゾネット
事業所名	グループホーム星の家きらり (Aユニット)
所在地	岡山県岡山市中区倉田576-8
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 28 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhouyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100299-00&ServiceCd=3206Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 6 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モンテッソーリケアを取り組むにあたり、企業理念の5つのポイントを念頭、認知症をお持ちの方にも分かりやすい環境や感覚や言語の訓練、脳トレに使用できそうな道具をスタッフ皆で積極的に作って行こうと頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員と常にコミュニケーションを作り、何でも話せる関係が築けている。コロナ禍で、利用者の交流がなくなり、職員は利用者ともなんでも話すことができ、「これもしてくれる？」とお願いしたら、手伝ってくれる関係が築けている。モンテッソーリ教育を実践し、好きなことが手に取れる方向から職員が利用者を選択肢を与える方法に変え、最終的に理念に向かう姿勢を取っている。職員間の相談で、方向性がギスギスすると、利用者が敏感に感じナーバスになりやすいから、利用者や周囲を意識しながら刺激を与えない様に努め、周りからそのような状況を気づき、「イライラしていない？」と声を掛け合って、関りを深めている。施設長を中心に管理者も常にスクラムを組んでいて、「ひとりではないよ。」「助けるよ。」とエールを送ったりして、人として、成長できるように促しているからこそ、何でも話せる環境が築け、10年選手のベテランも数多く居心地よく育っている。落ち着いた施設に守られた利用者の穏やかな姿と笑顔と、職員の前向きさが印象的だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モンテッソーリケアを進める上で、理念に基づいて実践に繋げていくよう努力している。	談話室・事務所などに理念を掲げ、いつでも理念が目に入るようにしている。コロナ禍でもあり、理念を基に今できることを考え、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染のため行事は中止になっている。電話などでの連絡は継続して行っている。	町内会に入っていて、廃品回収などにも参加している。回覧板を届ける時に近況を話したり、家でできた野菜を届けてもらったりと近隣の方との関係も良い。隣のガソリンスタンドのスタッフとも顔なじみの関係作りが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染のため行事は中止になっている。電話などでの連絡は継続して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染のため、運営推進会議を中止となっているが、構成員の方やご家族には、電話で意向などを確認し、報告書を作成し、配布させて頂いている。	推進会議の委員は、地域包括支援センター、町内会長・副会長、民生委員、老人クラブ、家族などが参加している。9月からは対面会議の再開を予定している。	新たに気づきを得るために身近な人や公的な人も呼んで、違う視野を広げてみてはいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染のため報告書のみ送付させて頂いている。	窓口は施設長が対応している。介護保険の更新申請など、管理者やケアマネも同行し、顔の見える関係作りを進めている。	施設長でないと対応できないような体制から管理者やケアマネまでも巻き込んで、対応できる体制を構築してはいかがでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○会議にて、拘束廃止委員会として話し合いを毎月している。ささいなことでも拘束にあたらないか、職員間で、話し合っている。	2ヶ月に1回、委員会を開催しており、本社にも報告している。職員の意見も拘束にならない方法を話し合い、特にスピーチロックを中心に話し合い、「あとから絶対に来るからね。」と安心していただける関係が深まっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所担当での勉強会もあり、それをきりに持ち帰り、職員会議に必ず報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を活用されている方もいらっしゃる、関係者との関係も上手くいっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時間は十分に話し合い、理解・納得はされているが入所されてからも疑問点等、ご家族からの要望あれば話し合いの場は設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを活用することで管理者不在でもコミュニケーションは取れている。	家族が「情報交換ノート」に伝達事項や意見を記入し、職員全体で情報を共有するようにしている。面会については、面会時間などを決め家族が安心できるように対応している。タブレットを使ったりリモート面会も取り入れ、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務報告書が施設長、管理者に届くので、意見・提案等、各個人とも話し合いの場を作っている。	職員は、業務報告書を毎月記入し、業務を振り返るようにしている。直接、管理者等に意見を言いにくい事は、本社を経由して管理者等に意見を届けるような体制が出来ている。職員同士の風通しも良く、コミュニケーションが取れ、何度も言える関係作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に入社したスタッフには心配りをし、常に声をかける様にしている。職場の雰囲気作りは大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得が出来る職員には、受験をするよう声をかけたり、取得方法を教えたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染で研修会の開催が定期的には行われていないが、会議で他の施設の職員と教員やケアについては話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入社した職員には常に声をかける様になっている。不安なことがある時には、早い段階で解決する様に職員全体でも話し合いをする様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ感染で面会禁止の時期が長いですが、大切な事は電話をかけるようにし、不安を少しでも早く解決する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアの説明、サービス利用に関しては電話対応や面会はできなくても、直接施設まで足を運んでいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の得意・不得意を理解し、出来ることはもっと出来る様に協力して笑い合える関係を築いて行きたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今の状態を理解して頂き、今後の事も相談できる関係を築いて行きたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染のため、外出は控えていただいているが、数カ月に一度、家族がなじみの美容院に連れていくなどの対応は継続している。また、感染状況を確認しながら、面会を解除したりしている。	感染状況も落ち着き、家族の面会も緩和している。訪問理容も定期的に来ている。窓際には、いつでもお茶が飲めるスペースがある。散歩に出た時は、近所の方とも馴染みの関係が出来、業者の方とも気さくに会話をされ、外部からの刺激も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルの方同士よくお話をされている。耳の間こえの悪い方はスタッフが間に入り、会話の橋渡しをすることもある。新しく利用者様が入られるとその方に合った席替えをさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族が自宅で出来た作物をホームに届けて下さる方もあるが、職員の顔ぶれも変わっており、来づらい様子も伺える。また、以前ご入居されていたご家族から紹介をいただいたり、他家族が入居したりと関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の際、職員と一対一なので、ご本人の思いや世間話など、話を聞く機会を作っている。	モンテッソーリケアを実践するための棚があり、利用者は塗り絵や脳トレなどを自由に選ぶことができるようにしている。水分補給も自由に選べるスペースを設けている。おやつも多めに準備し、選んでいただく体制もできている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や昔の事を話して下さることで把握し、それを知ることでケアに繋げて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で観察をし、個々の生活リズムを大切にすることで行動パターンも把握。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリング結果を基に仮プラン作成、カンファレンスにて意見交換を行っている。	職員全員がケアプランを理解して頂けるように、モニタリングは居室担当職員が行っている。介護度が改善されるケースもみられている。ご家族の意見は、「情報交換ノート」や電話連絡でまとめている。カンファレンスに家族が参加されることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の排泄状況や食事摂取量等、個別記録を記入することで職員間で情報共有し、ケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々によってご家族と話し合い、職員同士で意見を出し合い会議で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染のため、玄関先の畑の水やりや花の水やり、庭先くらの感覚で安全な暮らしをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	些細なことでも相談ができ、すぐ判断して指示を下さるのでとても信頼している。	かかりつけ医は、入居時に殆どの利用者の変更し、24時間、365日対応して頂いている。訪問看護とかかりつけ医とも連携が取れており、サポート体制も整っている。他科受診については、家族対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度来所され、その時に現在の様子をお伝えしています。利用者さんが点滴が必要な時も同じ訪問看護ステーションの方が来られるので相談しやすいです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ感染のため、こちらから定期的に担当のソーシャルワーカーさんに連絡して様子を伺ったり、帰所の時期を相談したりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢の利用者さんのご家族は早い段階で「入院はしない」と施設に伝えられ、こちらで看取りをと話されていますので主治医にもその旨報告了承を得ています。ほとんどの職員がターミナルケアを経験しています。常に職員一丸となって協力合っています。入居前には重度化した場合の対応について家族へ説明しています。	入居時に看取りに対応していることを伝え、家族の意向を聞いている。経験の少ない職員の不安を減らすよう施設長・管理者が「一人じゃないよ。いつでも助けるよ。」と言葉をかけている。看取りの後もカンファレンスを行い、職員の心のケアもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急への電話、持って行く物など会議で話をしているし、まずどこへ連絡するかなどしなければいけない事は普段から施設長・管理者から指示を受けている。。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方々にも協力して下さると運営推進会議の時お話がありました。年2回夜間を想定した避難訓練を実施。消防署から消火器の使用方法も学んでいる。災害時を想定しカセットコンロも購入。	運営推進会議に併せて避難訓練を実施し、消防署の協力も頂いている。冷凍食品を多めに備蓄し、被災に備えている。近隣に総合病院もあり、避難場所も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ドアを開ける前にはノックをする様にしています。利用者が居室以外の場所で過ごされている時はご本人に入室理由を説明し(掃除、片付け等)、許可を頂く様にしています。	利用者の呼称は、基本的には「～さん」としているが、本人・家族の意向を取り入れ、臨機応変に対応している。排泄を失敗された時は、他利用者に気付かれないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いを知ったり、選択して頂く様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションもしたい事をお聞きしてから行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どちらの服を着るのか言って下さる方にはお聞きしている。朝は寝癖を直すように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	器具を使用しての玉ねぎのみじん切りや、お好み焼きを焼いたり、一緒にすると笑顔になって下さるので、出来ることをしていただいています。「味見」が一番喜ばれます。	利用者に合わせて、洗い物や食器拭きなど出来ることをお願いしている。男性の利用者にも調理で出来ることをお願いしている。季節を楽しんでもらえるように、旬の食材も準備している。敷地内に畑もあり、収穫をした食材を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	テーブルの上にお車が入ったやかんや急須を置いておくと以前より水分摂取量が増加しました。「おかゆ」から「普通食」など体調、摂取量を見ながら形態も変えていっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが上手く出来ない方にはご家族に相談し、訪問歯科の時に衛生士さんによる口腔ケアを受診。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンやタイミングに合わせて声かけやトイレ誘導を行っています。夜間トイレの声かけをしたり、ポータブルトイレの使用をしたりしています。	利用者ごとに排泄のタイミングを変え、失敗しないように取り組んでいる。利用者のしぐさや表情を観察してトイレにお誘いすることもある。入居してから排泄用品の消費が抑えられたこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に注意し、お茶を何杯もご自分から飲まれる方、甘い物なら飲まれる方など、一人ひとりに応じた摂取方法に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	昼食後の入浴になる為、昼寝をされる方は後に、ずっとリビングで過ごされている方は先になど、時間を見て入浴順を考えています。入浴剤も入浴される方に選んでもらっています。	入浴は同性介助を希望される事もあり、臨機応変に対応している。重度の方はシャワー浴で対応し、身体の負担を減らすようにしている。浴室の前には、暖簾や富士山の貼り絵があり、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の年齢や体調考慮し、日中に臥床時間を取ったり、夕食後は早めに帰宅されたり、自由にして頂いています。朝も起床を強制することなく、遅い方は昼前まで寝られる方もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今の症状を主治医に報告し、改善されたら報告し、薬の処方中止していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モンテッソーリケアの実施で集中してされる事が多くなっています。カラオケも購入した事で歌う楽しみも増えました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染のため、外出行事などが中止となっている。定期受診などは行っているが、戸外への外出を控えている状況です。	集団で外出は出来ないが、感染対策を行いながら個別にドライブや散歩をしている。家族と受診に行った帰りに食事をされることもある。利用者が利用者らしくなるように健康状態に合わせて外出できる体制を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内の金庫にお金を預けている方や、ご家族よりおやつを買って欲しいと頼まれている方もおられるため、個別対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ感染のため、ご家族が飲み物やおやつのお手紙を書いて下さるご家族もおられますが、返信のお手紙を書いて出してはいませんが、お手紙を読まれて喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや通路に季節感のあるディスプレイや利用者さんの写真を貼っています。居室にも家族が写真を持ってこられ沢山貼られている方もいらっしゃいます。リビングカウンターの下には犬や猫の写真を展示。目線にあり「かわいい」と評判です。	飲み物を自由に選べるスペースがあり、そこから外の景色を楽しめるようにしている。食事の献立を書くことが利用者の日課になっていて、みんなに見てもらえることを喜んでいる。浴室の暖簾も利用者が書かれ、利用者が職員の代わりになるくらい貢献度が高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同志、居室で話されることもあります。TVをご覧になったり、本を読まれたり、一緒にパズルをされる時もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具を持ってこられる方もいらっしゃいます。居室がお好きで食事がすむとすぐ帰室される方もいらっしゃいます。表札で「ここが私の部屋じゃな」と確認される方もいらっしゃいます。分かりやすく、居室に表示を取り付けている方もおられます。	居室は、自宅から馴染みの物を持ち込まれた物で埋め尽くされ、自分の空間だと認識しやすく、職員は安全に留意した配置に心がけている。囲碁の好きな方は、碁盤を持ち込まれ、以前はボランティアの方と対局していたが、コロナ禍では、新聞を片手に、戦略を駆使しながら楽しまれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを迷う方の為に、大きな字で「便所」と書いたり、床にトイレまでの矢印を付けたりして支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100299		
法人名	株式会社メゾネット		
事業所名	グループホーム星の家きらり (Bユニット)		
所在地	岡山県岡山市中区倉田576-8		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiigkensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_1_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100299-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 6 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モンテッソーリケアを取り組むにあたり、企業理念の5つのポイントを念頭、認知症をお持ちの方にも分かりやすい環境や感覚や言語の訓練、脳トレに使用できそうな道具をスタッフ皆で積極的に作って行こうと頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員と常にコミュニケーションを作り、何でも話せる関係が築けている。コロナ禍で、利用者の交流がなくなり、職員は利用者ともなんでも話すことができ、「これもしてくれる?」とお願いしたら、手伝ってくれる関係が築けている。モンテッソーリ教育を実践し、好きなことが手に取れる方向から職員が利用者へ選択肢を与える方法に変え、最終的に理念に向かう姿勢を取っている。職員間の相談で、方向性がギスギスすると、利用者が敏感に感じやすくなるから、利用者や周囲を意識しながら刺激を与えない様に努め、周りからそのような状況を気づき、「イライラしていない?」と声を掛け合っ、関りを深めている。施設長を中心に管理者も常にスクラムを組んでいて、「ひとりではないよ。」「助けるよ。」とエールを送ったりして、人として、成長できるように促しているからこそ、何でも話せる環境が築け、10年選手のベテランも数多く居心地よく育っている。落ち着いた施設に守られた利用者の穏やかな姿と笑顔と、職員の前向きさが印象的だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モンテッソーリケアを進める上で、理念に基づいて実践に繋げていくよう努力している。	談話室・事務所などに理念を掲げ、いつでも理念が目に入るようにしている。コロナ禍でもあり、理念を基に今できることを考え、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で外出が制限されており、外部の方と交流を行っていない状況です。	町内会に入っていて、廃品回収などにも参加している。回覧板を届ける時に近況を話したり、家でできた野菜を届けてもらったりと近隣の方との関係も良い。隣のガソリンスタンドのスタッフとも顔なじみの関係作りが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で面会中止や外部の方の入場はお断りしており、交流が行っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議は開催しておらず、岡山市事業者指導課から資料をいただいたり、報告書を作成し、案内の配布は行っており、関係は継続できていると思う。	推進会議の委員は、地域包括支援センター、町内会長・副会長、民生委員、老人クラブ、家族などが参加している。9月からは対面会議の再開を予定している。	新たに気づきを得るために身近な人や公的な人も呼んで、違う視野を広げてみてはいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者より資料をいただいたりこちらからの報告書で実情をお知らせしている。	窓口は施設長が対応している。介護保険の更新申請など、管理者やケアマネも同行し、顔の見える関係作りを進めている。	施設長でないと対応できないような体制から管理者やケアマネまでも巻き込んで、対応できる体制を構築してはいかがでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○会議にて、拘束廃止委員会として話し合いを毎月している。	2ヶ月に1回、委員会を開催しており、本社にも報告している。職員の意見も拘束にならない方法を話し合い、特にスピーチロックを中心に話し合い、「あとから絶対に来るからね。」と安心していただける関係が深まっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所担当での勉強会もあり、それをきりに持ち帰り、職員会議に必ず報告している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を活用されている方もいらっしゃる、関係者との関係も上手くいっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時間は十分に話し合い、理解・納得はされているが入所されてからも疑問点等、ご家族からの要望あれば話し合いの場は設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを活用することで管理者不在でもコミュニケーションは取れている。コロナの影響で面会禁止になっているため、電話等で聞き、対応させていただいている。	家族が「情報交換ノート」に伝達事項や意見を記入し、職員全体で情報を共有するようにしている。面会については、面会時間などを取り決め家族が安心できるように対応している。タブレットを使ったりリモート面会も取り入れ、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務報告書が施設長、管理者に届くので、意見・提案等、各個人とも話し合いの場を作っている。	職員は、業務報告書を毎月記入し、業務を振り返るようにしている。直接、管理者等に意見を言いくらい事は、本社を経由して管理者等に意見を届けるような体制が出来ている。職員同士の風通しも良く、コミュニケーションが取れ、何度も言える関係作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に入社したスタッフには心配りをし、常に声をかける様になっている。職場の雰囲気作りは大切にしている。また始業前、退勤前に今日のことについて話をする時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得が出来る職員には、受験をするよう声をかけたり、取得方法を教えたりしている。退職者が出ないように、上記(12)内容も含め、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	モンテッソーリケアの研修会が定期的開催されているので、職員は積極的に参加をし、交流も図っている。コロナの影響で研修会の開催が難しく、社内でコアメンバーを決めて中心なり取り組んだり、YouTubeに動画を上げたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入社した職員には常に声をかける様にしている。不安なことがある時には、早い段階で解決する様に職員全体でも話し合いをする様にしている。話を合いを		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会は中止しており、大切なことや近況などは電話してお知らせしたり、リモート面会時間を設定し、ご利用者様とお話しされたりしている。コロナ感染状況を確認しながら、面会制限の解除を行うなどの対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報交換ノートの活用。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の得意・不得意を理解し、出来ることはもっと出来る様に協力して笑い合える関係を築いて行きたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今の状態を理解して頂き、今後の事も相談できる関係を築いて行きたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今現在、お友達や知り合いの方が来訪されることはない。外出等出来ないためリモートでお話できる時間を作っている。	感染状況も落ち着き、家族の面会も緩和している。訪問理容も定期的に来ている。窓際には、いつでもお茶が飲めるスペースがある。散歩に出た時は、近所の方とも馴染みの関係が出来、業者の方とも気さくに会話をされ、外部からの刺激も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルの方同士よくお話をされている。耳の聞こえの悪い方はスタッフが間に入り、会話の橋渡しをすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が自宅で出来た作物をホームに届けて下さる方もあり、職員の顔ぶれも変わっており、来づらいう様子も伺える。現在はコロナの為、来られる方はほとんどいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の際、職員と一対一なので、ご本人の思いや世間話など、話を聞く機会を作っている。	モンテッソーリケアを実践するための棚があり、利用者は塗り絵や脳トレなどを自由に選ぶことが出来るようにしている。水分補給も自由に選べるスペースを設けている。おやつも多めに準備し、選んでいただく体制もできている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や昔の事を話して下さることで把握し、それを知ることによってケアに繋げて行きたい。また、ご本人の思いをくみ取りながらケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で観察し、個々の生活リズムを大切にすることで行動パターンも把握。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリング結果を基に仮プラン作成、カンファレンスにて意見交換を行っている。	職員全員がケアプランを理解して頂けるように、モニタリングは居室担当職員が行っている。介護度が改善されるケースもみられている。ご家族の意見は、「情報交換ノート」や電話連絡でまとめている。カンファレンスに家族が参加されることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の排泄状況や食事摂取量等、個別記録を記入することで職員間で情報共有し、ケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々によってご家族と話し合い、職員同士で意見を出し合い会議で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関先の畑の水やりや花の水やり、クリーン作戦で利用者さんとゴミ拾いなど、遠出はしないが庭先くらの感覚で安全な暮らしをして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と信頼関係ができ、よく対応して下さっている。訪問歯科では利用者さんの治療が必要な事を直接ご家族に連絡して頂き、説明をさせて頂いています。	かかりつけ医は、入居時に殆どの利用者が変更し、24時間、365日対応して頂いている。訪問看護とかかりつけ医とも連携が取れており、サポート体制も整っている。他科受診については、家族対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度来所され、その時に現在の様子をお伝えしています。利用者さんが点滴が必要な時も同じ訪問看護ステーションの方が来られるので相談しやすいです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	こちらから定期的に担当のソーシャルワーカーさんに連絡して様子を伺うようにしたり、面会禁止の為電話連絡のみで時期を相談したりしています。必要に応じて、アセスメントを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢の利用者さんのご家族は早い段階で「入院はしない」と施設に伝えられ、こちらで看取りをと話されていますので主治医にもその旨報告了承を得ています。ほとんどの職員がターミナルケアを経験しています。常に職員一丸となって協力し合っています。入居前には重度化した場合の対応について家族へ説明しています。	入居時に看取りを対応していることを伝え、家族の意向を聞いている。経験の少ない職員の不安を減らすよう施設長・管理者が「一人じゃないよ。いつでも助けるよ。」と言葉をかけている。看取りの後もカンファレンスを行い、職員の心のケアもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急への電話、持って行く物など壁に掲示したり会議で話をしているし、ほぼ全員がまずどこへ連絡するかなどしなければいけない事は心得ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方々にも協力して下さると運営推進会議の時お話がありました。年2回夜間を想定した避難訓練を実施。消防署から消火器の使用方法も学んでいる。災害時を想定しカセットコンロも購入。	運営推進会議に併せて避難訓練を実施し、消防署の協力も頂けている。冷凍食品を多めに備蓄し、被災に備えている。近隣に総合病院もあり、避難場所も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ドアを開ける前にはノックをする様にしています。利用者が居室以外の場所で過ごされている時はご本人に入室理由を説明し掃除、片付け等、許可を頂く様にしています。	利用者の呼称は、基本的には「～さん」としているが、本人・家族の意向を取り入れ、臨機応変に対応している。排泄を失敗された時は、他利用者に気付かれないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話やしぐさで思いを知ったり、選択して頂く様に環境を整えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションもしたい事をお聞きしてから行っています。ご自分で選択できるよう、レク棚を整理したり、いくつかの中から選んでいただけるような提供の仕方を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どちらの服を着るのか言って下さる方にはお聞きしている。朝は寝癖を直すように心がけている。ご自分で更衣される方は、季節に合った服装等も提案させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごますりや酢飯を混ぜたり、一緒にすると笑顔になって下さるので、出来ることをして頂いています。	利用者に合わせて、洗い物や食器拭きなど出来ることをお願いしている。男性の利用者にも調理で出来ることをお願いしている。季節を楽しんでもらえるように、旬の食材も準備している。敷地内に畑もあり、収穫をした食材を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際、テーブルの上にお茶が入ったやかんや急須を置いておくと、好きな時間にご自分でつがれたりし、以前より水分摂取量が増加しました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨くことができる方は、磨かれた後職員が確認を行い、口腔ケアが上手く出来ない方にはご家族に相談し、訪問歯科の時に衛生士さんによる口腔ケアを受診。スタッフが衛生士さんにコツや汚れやすいところ等聞いて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンやタイミングに合わせて声かけやトイレ誘導を行っています。夜間トイレの声かけをしたり、ポータブルトイレの使用をしたりしています。	利用者ごとに排泄のタイミングを変え、失敗しないように取り組んでいる。利用者のしぐさや表情を観察してトイレにお誘いすることもある。入居されてから排泄用品の消費が抑えられたこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に注意し、お茶を何杯もご自分から飲まれる方、甘い物なら飲まれる方など、一人ひとりに応じた摂取方法に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼食後の入浴になる為、昼寝をされる方は後に、ずっとリビングで過ごされている方は先になど、時間を見て入浴順を考えています。入浴剤も入浴される方を選んでもらっています。	入浴は同性介助を希望される事もあり、臨機応変に対応している。重度の方はシャワー浴で対応し、身体の負担を減らすようにしている。浴室の前には、暖簾や富士山の貼り絵があり、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの年齢や体調考慮し、昼寝をしてもらったり、夕食後は早めに帰宅されたり、自由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今の症状を主治医に報告し、改善されたら薬が処方されなくなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モンテッソーリケアの実施で集中してされる事が多くなっています。カラオケも購入した事で歌う楽しみも増えました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒い季節は余り外出しませんが、お花見や近くのスーパーの買い物など、車椅子の方でも一緒に出かけられます。家族の会で食事をしたり、散歩がてら一緒に買い物に行ったりされている利用者もいらっしゃいます。現在はコロナの影響で外出することが難しく、室内で過ごされることが多い。	集団で外出は出来ていないが、感染対策を行いながら個別にドライブや散歩をしている。家族と受診に行った帰りに食事をされることもある。利用者が利用者らしくなるように健康状態に合わせて外出できる体制を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内の金庫にお金を預けている方や、ご家族よりおやつを買って欲しいと頼まれている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの訴えがあれば、電話で話して頂いている。中には、手紙を書かれる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや通路に季節感のあるディスプレイや利用者さんの写真を貼っています。居室内にも家族が写真を持ってこられ沢山貼られている方もいらっしゃいます。リビングカウンターの下には犬や猫の写真を展示。目線にあり「かわいい」と評判です。	飲み物を自由に選べるスペースがあり、そこから外の景色を楽しめるようにしている。食事の献立を書くことが利用者の日課になっていて、みんなに見てもらえることを喜んでいる。浴室の暖簾も利用者が書かれ、利用者が職員の代わりになるくらい貢献度が高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVをご覧になったり、本を読まれたり、編み物をされる時もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具を持ってこられる方もいらっしゃいます。居室がお好きで食事がすむとすぐ帰宅される方もいらっしゃいます。お位牌を持ってこられている方もいらっしゃいます。亡くなられたご主人の写真を置かれている方もいらっしゃいます。	居室は、自宅から馴染みの物を持ち込まれた物で埋め尽くされ、自分の空間だと認識しやすく、職員は安全に留意した配置に心がけている。囲碁の好きな方は、碁盤を持ち込まれ、以前はボランティアの方と対局していたが、コロナ禍では、新聞を片手に、戦略を駆使しながら楽しんでいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者になじみを持っていただけるように「トイレ」の表示をご利用者様にご覧いただき書いていただいています。		